

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	介護の基本Ⅰ		必修	1年前期	15コマ・30時間
担当教員	星浩一	背景	介護福祉士職歴5年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	電子辞書を用意する(携帯電話不可)				
教科書等	最新介護福祉士養成講座3 介護の基本Ⅰ 最新介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ				
授業概要 介護福祉士の行う介護を理解する上での基本的知識を身に付ける。介護の理念、歴史、関連する制度、職業倫理等、文字通りの「介護の基本」を中心に学ぶ。「尊厳の保持」「自立支援」という基本的な介護の考え方や用語を理解する。					
狙いと到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ○ 今日までの介護の歴史を理解することができる。 ○ 介護福祉士の役割と機能を理解することができる。 ○ 介護福祉の理念を説明できる。 ○ 社会福祉士及び介護福祉士法の義務について説明できる。 ○ 日本介護福祉士会倫理綱領について説明できる。 					
授業において実務経験をどのように生かすか 介護福祉士としての現場での「自立支援」、「尊厳の保持」に関する取り組みをを授業の具体例として活かし、介護福祉士倫理綱領の大切さを伝えていきたい。					
授業計画・内容					
1	ガイダンス:介護の基本とは 授業の進め方				
2	専門職による介護が誕生した社会的な背景 介護の成り立ち① 介護とは				
3	介護の成り立ち②:戦後、介護問題への対応が始まるまでの主な社会福祉政策 老人福祉法				
4	介護の成り立ち③:訪問介護の歴史				
5	介護の概念の変遷①: 1970年代 介護サービスの量的拡充				
6	介護の概念の変遷②: 1980年代 介護サービスの質的向上				
7	介護の概念の変遷③: 1990年代 介護保険法の制定に向けて				
8	介護の概念の変遷④:2000年以降 今日の介護サービスの基本的枠組みが整備と介護概念の拡大				
9	介護福祉の基本理念について				
10	社会福祉士及び介護福祉士法 法の概要 法制定および改正法の成立				
11	介護福祉士の役割と機能:介護福祉士の活動の場と役割				
12	介護福祉士の倫理 介護にたずさわる人が持つべき職業倫理				
13	介護福祉士の倫理 介護福祉士に求められる職業倫理				
14	日本介護福祉士会倫理綱領				
15	科目認定試験				
評価方法	①出席点 10% ②小テスト 20% ③レポート 10% ④科目認定試験 60%				
自由記述 (メッセージ)	本授業は、介護福祉士として働く上での大前提となる知識を習得します。言葉の意味を一つ一つ丁寧に理解することを望みます。				

実務家教員

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	介護の基本Ⅱ		必修	1年前期	15コマ・30時間
担当教員	主担当倉持有希子	背景	YMCA教員歴22年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	電子辞書を用意				
教科書等	最新介護福祉士養成講座3 介護の基本Ⅰ 最新介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ				
授業概要					
<ul style="list-style-type: none"> ○ 「尊厳を支える介護」「自立支援」について理解を深める。 ○ 介護における「ICF」の捉え方を理解し、介護の実践に応用する視点を持つ。 ○ 「高齢者虐待」「身体拘束」「個人情報保護」について理解する。 ○ 介護における専門職能団体の活動を知る。 					
狙いと到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ○ 「尊厳を支える介護」「自立支援」について述べることができる。 ○ 「ICF」における生活機能と各因子との相互作用について説明できる。 ○ 「高齢者虐待」「身体拘束」「個人情報保護」に関連する知識を説明できる。 ○ 介護における専門職能団体の活動を説明できる。 					
授業において実務経験をどのように生かすか					
○ 地域における社会福祉実践および取材をもとに、時代のニーズに沿う教育をする。					
授業計画・内容					
1	尊厳を支える介護 ノーマライゼーションとは				
2	自立を支える介護 ストレングスとは				
3	ICFの基本理解 小テスト				
4	映像を通して ICFの考え方を理解する①				
5	映像を通して ICFの考え方を理解する②				
6	映像を通して ICFの考え方を理解する③				
7	映像を通して ICFの考え方を理解する④ 小テスト				
8	高齢者虐待				
9	身体拘束				
10	緊急やむを得ない身体拘束				
11	障害者虐待				小テスト
12	個人情報保護①				
13	個人情報保護②				小テスト
14	介護における専門職能団体の活動・多職種連携				
15	科目認定試験				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ①出席点 10% ②小テスト×4回 30% ③科目認定試験 60% 				
自由記述 (メッセージ)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 尊厳を支え、自立を支援するという介護福祉の重要な考え方を、資料や映像を通して学習します。また、ICFについては、利用者の全体像の把握に欠かせません。しっかりと振り返って確実に身に付けましょう。 ○ 高齢者の人権にかかわる法律を理解したうえで、介護における人権問題について考えてみましょう。 				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科
授業名・属性	介護の基本Ⅲ	必修	1年後期 15コマ・30時間
担当教員	主担当 星浩一	背景	YMCA専任教員
授業形態	講義・演習	実務家教員 である	
受講ルール	共通ルール＋実習着 ルール		
受講条件	特になし		
教科書等	介護福祉士養成講座4介護の基本Ⅱ		
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・介護における安全確保に関する基本的知識を理解し身につける。 ・感染予防のための基本的知識を理解し身につける。 		
狙いと到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・リスクマネジメントについて理解することができる。 ・バイタルサインを正確に測定することができる。 ・介護職ができる「医行為でない行為」について理解できる。 ・感染予防について理解し、感染予防のための行動ができる。 		
授業において実務経験をどのように生かすか	<p>看護師経験を活かし、医学的知識を根拠とする介護実践について教育する。 現場で起こりやすい介護事故について、原因と対策について考えられるよう教育する。</p>		
授業計画・内容			
1	救命救急講習		
2	救命救急講習		
3	救命救急講習		
4	救命救急講習		
5	介護における安全の確保①バイタルサインとは		
6	介護における安全の確保②バイタルサインの測定 演習		
7	介護における安全の確保③観察とは 医行為でない行為		
8	介護における安全の確保④医薬品使用の介助		
9	リスクマネジメントについて① リスクマネジメントとは何か		
10	リスクマネジメントについて② 介護事故に関するグループワーク		
11	感染予防①感染対策の基本		
12	感染予防②高齢者介護施設での感染対策		
13	感染予防③標準予防策の技術 演習		
14	感染予防④感染性胃腸炎の対応 演習		
15	科目認定試験		
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ①出席点 10% ②小テスト×2回 10% ③演習レポート3回 20% ④科目認定試験 60% 		
自由記述 (メッセージ)	<p>演習については、「医療的ケア」の基礎となります。 演習は体調を整え、欠席しないようにしてください。</p>		

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	介護の基本Ⅳ		必修	2年前期	15コマ・30時間
担当教員	主担当 倉持有希子	背景	YMCA専任教員		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	新・介護福祉士養成講座3 介護の基本Ⅰ 他の教科書も使用予定				
授業概要 介護を必要とする人たちの暮らしを理解する。 事例または多様な介護実践を通して、介護福祉を必要とする人の多様性を理解する。 介護福祉職の安全について理解する。					
狙いと到達目標 ○ 介護福祉を必要とする高齢者、障がい者の暮らしを理解する。 ○ グループワークによるディスカッションを通して、利用者の多様性について理解を深めることができる。 ○ 介護福祉職の健康管理について理解する。 ○ 労働環境の整備について理解する。					
授業において実務経験をどのように生かすか 地域における社会福祉実践および取材をもとに、時代のニーズに沿う教育をする。					
授業計画・内容					
1	介護福祉を必要とする人たちの暮らしを理解する ①高齢者				
2	介護福祉を必要とする人たちの暮らしを理解する ②高齢者				
3	介護福祉を必要とする人たちの暮らしを理解する ③高齢者 小テスト①				
4	その人らしさと生活のニーズの理解①				
5	その人らしさと生活のニーズの理解②				小テスト②
6	生活のしづらさの理解とその支援①				
7	生活のしづらさの理解とその支援②				
8	家族介護者への支援				小テスト③
9	地域での暮らしをどう支えていくのか(吉田) ～障がい者グループホームで働く卒業生より～				
10	知的障がいの人への理解(吉田) ～障がい特性並びに地域で暮らし続けるために必要なこと～				
11	自閉症の人への理解(吉田) ～障がい特性並びに地域で暮らし続けるために必要なこと～ 小テスト④				
12	介護職の健康管理の意義・目的 ころの健康管理				
13	身体の健康管理				
14	労働環境の整備				小テスト⑤
15	科目認定試験				
評価方法	①出席点10% ②小テスト 30%(6点満点×5回) ③科目認定試験 60%				
自由記述 (メッセージ)	その人らしさについて、教科書の事例等より理解を深め、				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	介護の基本V	必修	2年前期	15コマ・30時間	
担当教員	渡邊義昭/作業療法学科教員	背景	専門学校・短期大学・大学等教育歴28年/作業療法士		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	(本冊子冒頭) 共通ルール				
受講条件	介護福祉科2年生				
教科書等	福祉小六法 中央法規出版 新版・介護福祉士養成講座 4巻 介護の基本Ⅱ				
授業概要	<p>リハビリテーションやケアマネジメントの考え方を理解し、専門職(他職種)との連携を学ぶ。</p> <p>狙いと到達目標</p> <p>「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習とする。またリハビリテーションの基本を学び、他職種協働やケアマネジメントなどの実際を理解する。介護やリハビリにおけるチームケアについて理解、説明ができる。サービス担当者会議を行う。</p> <p>授業において実務経験をどのように生かすか</p> <p>高齢者やリハビリテーション分野における調査研究で得た知見から、ケアマネジメントの在り方を伝えることができる。</p>				
授業計画・内容					
1	自立に向けたリハビリテーション リハビリテーションの考え方				
2	自立に向けたリハビリテーション ICF・QOL				
3	自立に向けたリハビリテーション リハビリテーションの実際				
4	自立に向けたリハビリテーション 病院・施設におけるリハビリテーション				
5	自立に向けたリハビリテーション 在宅におけるリハビリテーション				
6	自立に向けたリハビリテーション 介護予防				
7	自立に向けたリハビリテーション リハビリテーション専門職との連携				
8	ケアマネジメント 介護保険制度の理念とケアマネジメント(教科書学習)、介護過程との関連性。DVD学習「サービス担当者会議(チームアプローチの実際):在宅編」				
9	ケアマネジメント 介護サービス計画①在宅編、処遇困難事例の実際とケアプラン。PDCAサイクルの「ケアマネジメントサイクル」への応用				
10	ケアマネジメント 介護サービス計画②施設編:特別養護老人ホームと老人保健施設の施設ケアプラン。事例とケアプランの説明。グループによるサービス担当者会議・チームアプローチの準備①				
11	ケアマネジメント グループによるサービス担当者会議・チームアプローチの準備②				
12	ケアマネジメント ロールプレイ:サービス担当者会議・チームアプローチの実際(前半)と振り返り				
13	ケアマネジメント ロールプレイ:サービス担当者会議・チームアプローチの実際(後半)と振り返り				
14	ケアマネジメント まとめ「ケアマネジメント論と介護福祉教育～5年後のキャリアアップを見据えた学びから」				
15	自立に向けたリハビリテーション・ケアマネジメントに関する試験の実施				
評価方法	授業内の課題40%、科目認定試験結果60%として、60点以上で合格。				
自由記述 (メッセージ)	介護福祉士として、自立に向けたリハビリテーション・ケアマネジメントの理解は不可欠です。サービス担当者会議のロールプレイを通して総合的な理解を求めます。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	介護の基本Ⅵ	必修	2年後期	15コマ・30時間	
担当教員	渡邊義昭	背景	専門学校・短期大学・大学等教育歴28年		
授業形態	講義	実務家教員	でない		
受講ルール	(本冊子冒頭) 共通ルール				
受講条件	介護福祉科2年生				
教科書等	福祉小六法 中央法規出版 新版・介護福祉士養成講座 4巻 介護の基本Ⅱ				
授業概要					
「地域」をキーワードに、講義、演習、グループワークと発表を行う。また家族との連携、他職種連携・地域連携を理解する。					
狙いと到達目標					
日本の未来の縮図とも言われる砂川(大山)団地に関する論文を講読し、地域包括支援システムの視点について研究する。「地域に開かれた施設とは何か、地域における福祉の在り方」について互助・協働を介護福祉士の視点で考え、グループ発表する。① 介護福祉士として施設・地域(在宅)を通じた、汎用性のある能力を身につける。② 地域における介護上の課題が、時事問題等(社会の理解)を絡めながら理解できる。地域共生社会の視点を踏まえ、介護における広義のチームケアや、地域や家族との連携について説明できる。					
授業において実務経験をどのように生かすか					
高齢者分野における調査研究で得た知見から、地域福祉・ケアマネジメントの在り方を伝えることができる。					
授業計画・内容					
1	はじめに 14回の授業全体の進め方(二つのテーマとグループワークと発表を到達点に)の確認				
2	災害時における地域における生活課題と福祉施設(福祉難所)の役割について学ぶ。				
3	DVD学習「大山団地 孤独死ゼロの取り組み」団地の現状から見えてくる地域と高齢者問題「孤独死防止の取り組みから」問題意識の提示。グループ発表のテーマ選択、ニーズ他、「大山団地の活性化について」グループ発表の準備①関連論文講読。				
4	「大山団地の活性化について」グループ発表の準備②				
5	「大山団地の活性化について」グループ発表の準備③				
6	「大山団地の活性化について」グループ発表の準備④～パワーポイント画面の完成				
7	「大山団地の活性化について」グループ発表の準備⑤～発表シナリオの完成、リハーサル				
8	グループ発表「大山団地の活性化について」(前半)				
9	グループ発表「大山団地活の活性化について」(後半)				
10	「大山団地の活性化について」グループ発表の振り返り「次のグループ課題」にむけて				
11	「地域包括ケアシステム」「障害者サービス、子育て支援サービスと高齢者サービスの相互乗り入れ、混合利用」(ノーマライゼーション、共生ということ)				
12	「地域に開かれた施設」課題発見と発表準備				
13	グループ発表「地域に開かれた施設」準備と発表				
14	グループ発表「地域に開かれた施設」発表と振り返り 全体のまとめ				
15	評価試験				
評価方法	授業内の課題40%、科目認定試験結果60%として、60点以上で合格。				
自由記述(メッセージ)	介護福祉士として、福祉施設が地域の中でどのような役割を持っているか、地域住民に対するエンパワメントアプローチについての理解を深めてもらいたいです。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名・属性	コミュニケーション技術Ⅰ		必修	1年前期	15コマ・30時間
担当教員	吉田真衣	背景	介護福祉士職歴6年		
授業形態	講義・演習	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	中央法規出版 最新 介護福祉士養成講座 第5巻 コミュニケーション技術				
授業概要					
コミュニケーション技術では、人間関係とコミュニケーションで学ぶコミュニケーションの基礎的な知識を基盤に、本人及び家族とのよりよい関係性の構築や障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的な知識・技術を習得する。					
狙いと到達目標					
【狙い】 対象者との支援関係の構築するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う学習とする。					
【到達目標】 (1)本人の置かれている状況を理解し、支援関係の構築や意思決定を支援するための基本的なコミュニケーション技術を身につけることができる。 (2)家族の置かれている状況・場面を理解し、家族への支援やパートナーシップを構築するための基本的なコミュニケーション技術を身につけることができる。 (3)障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的技術を身につけることができる。					
授業において実務経験をどのように生かすか					
介護場面におけるコミュニケーションの基本を伝えていきたい。また、学生の学びの段階や状況に応じ、臨床経験での場面も伝え具体的な利用者や場面等をイメージできるような授業展開をしたい。各学生の実習等での学びや経験も授業に反映できるよう努める。					
授業計画・内容					
1	介護におけるコミュニケーションとは／介護におけるコミュニケーションの対象				
2	援助関係とコミュニケーション				
3	コミュニケーション基本技術①				
4	コミュニケーション基本技術②				
5	コミュニケーション障害の理解				
6	利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際1 ～感覚機能に障害がある人とのコミュニケーション①				
7	利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際2 ～感覚機能に障害がある人とのコミュニケーション②				
8	利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際3 ～言語障害のある人とのコミュニケーション				
9	利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際4 ～認知症のある人とのコミュニケーション				
10	利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際5 ～うつ病、統合失調症のある人とのコミュニケーション				
11	利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際6 ～自閉症、発達障害のある人とのコミュニケーション				
12	利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際7 ～高次脳機能障害、重症心身障害のある人へのコミュニケーション～ コミュニケーション支援用具について				
13	家族とのコミュニケーション				
14	まとめ				
15	科目認定試験				
評価方法	科目認定試験80%・授業内課題20%で評価。 総合し60点以上であること。				
自由記述 (メッセージ)	様々な介護場面において、専門家として適切な支援を行う為には、利用者や家族、他の専門職とのコミュニケーションが必要となる。また、利用者との関係を深めていく為には、ただなんとなく「コミュニケーション」をとるだけでは不十分である。本科目においてコミュニケーションの基本的なスキルやその効果について学ぶと共に他科目や実習、さらには様々な学校生活での経験を通し、コミュニケーション技術習得に向け取り組みましょう。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名 属性	コミュニケーション技術Ⅱ		必修	2年前期	15コマ・30時間
担当教員	半田 仁	背景	介護職員6年+教員11年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	介護福祉士養成講座編集委員会編『コミュニケーション技術』中央法規				
授業概要 コミュニケーション技術の習得の授業のため、講義だけではなく、演習も行い、コミュニケーション技術の向上を図るとともに、実践的なコミュニケーション能力も養う					
狙いと到達目標 ・利用者のみならず、家族や他職種に対する実践的なコミュニケーションがとれるようになる。 ・援助的なコミュニケーションについて理解するとともに、実践的なコミュニケーションがとれるようになる。 ・家族や多職種との連携を図る上での実践的なコミュニケーションの重要性を理解することができる。					
授業において実務経験をどのように生かすか 通所介護および特別養護老人ホームにて介護職員としてに携わった経験から、高齢者の気持ちや行動の意味付けの理解と共に、各介護サービスによる必要な技術の違いについて実践を交えながら講義や演習の中において活かしていく。					
授業計画・内容					
1	介護における記録の意義、目的				
2	実践記録の基本的な書き方(観察の記録の書き方、種類)				
3	報告 報告の意義と目的				
4	連絡・相談 連絡・相談の方法、留意事項				
5	介護記録の基本的な書き方(介護記録の実際記録を実践に活用)				
6	介護記録の基本的な書き方(介護記録の管理、介護記録の活用)				
7	記録の活用方法(介護計画に活用)				
8	記録の活用方法(リスクマネジメントに活用)				
9	会議 会議の意義と目的				
10	会議 会議の種類と方法				
11	事例検討に関する技術(職員の教育に活用)				
12	介護記録によるICT活用を含めた情報の共有化の意義、活用の留意点				
13	記録の管理 記録の管理と個人情報保護				
14	まとめ(記録の意義や目的をまとめ、振り返る)				
15	科目認定試験				
評価方法	講義だけでなく、演習も行っていくので、参加度(20%)、授業内課題(20%)、科目認定試験(60%)を総合的に判断し、評価を行う。 総合評価、60点以上であること。				
自由記述 (メッセージ)	生活支援「技術」と同様に、コミュニケーションを感性や感覚ではなくコミュニケーション「技術」として習得および活用して頂きたい。 目の前にいる人を対象とした直接的なコミュニケーション技術からICT活用を含めた介護記録としての間接的なコミュニケーション技術へとコミュニケーション技術の幅を広げて頂きたい。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	生活支援技術1		必修	1年前期	15コマ・30時間
担当教員	品川智則	背景	介護福祉士職歴5年		
授業形態	講義・演習	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	最新介護福祉士養成講座 第6巻 生活支援技術 I 中央法規 最新介護福祉士養成講座 第4巻 介護の基本 II 中央法規				
授業概要 適切な介護技術を用い援助できる知識を修得する。 また、生活支援を実施していくうえで、必要な理念価値、実践価値について学び、専門職が行う生活支援技術の土台について学びます。					
狙いと到達目標 尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。 安全・安楽な介護技術を用いることができる基本的な考え方が理解できる。					
授業において実務経験をどのように生かすか 私は、介護現場において、利用者の心身の状況に応じた介護を実践するために、利用者を多角的な視点で全体を把握し、その時々で必要なかわりには何か考え判断し実践してきた。多様な利用者との関わりから得られた経験から、自立支援とは					
授業計画・内容					
1	生活支援技術とは 生活とは何か、学習の内容とポイント				
2	生活支援とは何か① 生活支援の基本的な考え方				
3	生活支援とは何か② 生活支援の基本的な考え方				
4	生活支援とは何か③ 生活支援の基本的な考え方				
5	生活支援とは何か④ 生活史について考える				
6	生活支援とは何か⑤ 生活史について考える				
7	生活支援とは何か⑥ 生活史について考える				
8	生活支援とは何か⑦ 生活史について考える				
9	生活支援の考え方① 自立支援				
10	生活支援の考え方② 自己選択自己決定				
11	生活支援の考え方③ 生活支援の対象者				
12	生活支援における他職種との連携				
13	生活支援のポイント				
14	生活支援のポイント 科目のまとめ				
15	科目認定試験				
評価方法	授業内の課題30%、平常点10%、科目認定試験結果60%として、60点以上で合格とする。				
自由記述 (メッセージ)	生活支援技術1では、これから具体的に学んでいく技術を実践するうえでの土台となる考え方について学びます。改めて、生活とは何かを考えるとともに、他者の価値観や考え方に関心をもつことを普段の生活のなかでも実施していきましょう。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	生活支援技術2 (自立に向けた居住環境の整備) (自立に向けた移動の介護)		必修	1年前期	15コマ・30時間
担当教員	品川智則	背景	介護福祉士職歴5年		
授業形態	講義・演習	実務家教員である			
受講ルール	共通ルール＋実習者ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	最新介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ 中央法規				
授業概要 この科目は「居住環境整備」に関する内容と「移動の介護」に関する内容とで構成されている。 尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出すこと、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について学習する。 「こころとからだのしくみ」を中心とした他科目での学びも関連させ、講義・演習を通して学んでいく。また、演習では援助者役・利用者役を行い学習すると共に授業内容の振り返りを行う為にレポート課題を設ける。					
狙いと到達目標 ・安全で自立した快適な生活環境の諸条件とその整備について理解することが出来る。 ・自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出すことや見守りを含めた適切な介護技術を用いて、安全に移乗・移動の援助を提供できる技術や知識を身に付ける。					
授業において実務経験をどのように生かすか 基本的な方法やその根拠を伝えていきたい。また、学生の学びの段階や状況に応じ、臨床経験での場面も伝え具体的な利用者や環境などをイメージできるように授業を行いたい。					
授業計画・内容			「関連科目」こころとからだのしくみⅠ		
1	生活支援における居住環境の意義と目的 ～住まいの役割と機能～		・「活動・移動」に関連したこころとからだのしくみ ・身体の骨と関節の働きのしくみ ・身体の筋肉と神経の働きのしくみ ・活動・移動の目的と生理的・心理的意味 ・移動の基本となる体位変換 ・ボディメカニクスとキネステティクス		
2	安全に暮らすための生活環境・快適な室内環境				
3	安全に暮らすための生活環境・快適な室内環境				
4	演習に関する準備 演習				
5	リネン類のたたみ方 演習				
6	ベッドメイキング 演習				
7	ベッドメイキング 演習				
8	移動技術に関する基本 演習				
9	車いすの操作 演習				
10	車いすの操作 演習				
11	基本的な体位変換① 仰臥位から側臥位 演習				
12	基本的な体位変換① 仰臥位から側臥位 演習				
13	就床者のシーツ交換 演習				
14	就床者のシーツ交換 演習				
15	科目認定試験				
評価方法	科目認定試験60%・授業内課題30%・出席率10%で評価。 総合し60点以上であること、レポートが全て提出されていること。				
自由記述 (メッセージ)	演習には必ず参加しましょう。実習着ルールに従い清潔感のある身だしなみを意識して下さい。また、積極的に参加し技術習得に向け繰り返し練習をしましょう。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	生活支援技術3 (自立に向けた移動の介護)		必修	1年前期	15コマ・30時間
担当教員	品川智則	背景	介護福祉士職歴5年		
授業形態	講義・演習	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール+実習者ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	最新介護福祉士養成講座 生活支援技術 I・II 中央法規				
授業概要	<p>尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出すこと、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について学習する。 「こころとからだのしくみ」を中心とした他科目での学びも関連させ、講義・演習を通して学んでいく。また、演習では援助者役・利用者役を行い学習すると共に授業内容の振り返りを行う為にレポート課題を設ける。</p>				
狙いと到達目標	<p>自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出すことや見守りを含めた適切な介護技術を用いて、安全に移乗・移動の援助を提供できる技術や知識を身に付ける。</p>				
授業において実務経験をどのように生かすか	<p>基本的な方法やその根拠を伝えていきたい。また、学生の学びの段階や状況に応じ、臨床経験での場面も伝え具体的な利用者や環境などをイメージできるような授業展開をしたい。各学生の実習などでの学びや経験も授業に反映できるよう努める。</p>				
授業計画・内容	「関連科目」こころとからだのしくみ I				
1	基本的な体位変換② 水平移動、上方移動 演習	~「活動・移動」に関連したこころとからだのしくみ~ ・からだのしくみの理解 ・移動とは 基本的な姿勢 ・移動の基本となる体位変換(仰臥位から側臥位歩行のしくみ) ・ボディメカニクス ・廃用症候群 褥瘡 ・心身機能の低下が移動に及ぼす影響 ・変化の気づきと対応			
2	基本的な体位変換② 水平移動、上方移動 演習				
3	基本的な体位変換③ (演習) 端座位から立位への援助、立位から座位への援助演習				
4	基本的な体位変換③ (演習) 端座位から立位への援助、立位から座位への援助演習				
5	事例に基づいた具体的な援助① 演習				
6	事例に基づいた具体的な援助① 演習				
7	車いすへの移乗① 全介助における方法 演習				
8	車いすへの移乗① 全介助における方法 演習				
9	車いすへの移乗② 自立支援での車いすへの移乗 演習				
10	車いすへの移乗② 自立支援での車いすへの移乗 演習				
11	事例に基づいた具体的な援助② 演習				
12	事例に基づいた具体的な援助② 演習				
13	福祉用具について 演習				
14	福祉用具について 演習				
15	科目認定試験				
評価方法	科目認定試験60%・授業内課題30%・出席率10%で評価。 総合し60点以上であること、レポートが全て提出されていること。				
自由記述 (メッセージ)	演習には必ず参加しましょう。実習着ルールに従い清潔感のある身だしなみを意識して下さい。また、積極的に参加し技術習得に向け繰り返し練習をしましょう。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科					
授業名,属性	生活支援技術4 (自立に向けた食事の介護)		必修	1年後期	15コマ・30時間			
担当教員	品川智則	背景	介護福祉士職歴5年					
授業形態	講義・演習	実務家教員 である						
受講ルール	共通ルール+実習者ルール							
受講条件	特になし							
教科書等	最新介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ 中央法規							
授業概要 尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出すこと、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について学習する。 「こころとからだのしくみ」を中心とした他科目での学びも関連させ、講義や基礎演習、さらには事例演習と段階を踏んで学んでいく。また、演習では援助者役・利用者役を行い学習すると共にレポート課題を設ける。学習内容によってはグループにて体験的に学べるよう授業を構成する。								
狙いと到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・心身の状態や生活文化を把握し、一人ひとりの食生活を尊重した介護の提供できる。 ・その人らしくおいしく楽しく食べられる食生活を支援するための考え方、知識を習得する。 ・食事介助、口腔ケアに関する基本的な技術を習得する。 								
授業において実務経験をどのように生かすか 基本的な方法やその根拠を伝えていきたい。また、学生の学びの段階や状況に応じ、臨床経験での場面も伝え具体的な利用者や環境などをイメージできるような授業展開をしたい。各学生の実習などでの学びや経験も授業に反映できるよう努める。								
授業計画・内容				「関連科目」こころとからだのしくみⅡ				
1	食事の意義・目的 暮らしの中の食事、生活文化と食事		~「食事」に関連したこころとからだのしくみ~ ・食べるしくみと食べる姿勢 ・心身機能の低下が食事に及ぼす影響 ・変化の気づきと対応(誤嚥・窒息・嚥下障害・脱水) ・口腔ケア					
2・3	食事形態の工夫①(おいしさと食べやすさ) ~私たちができる関わりとは~							
4・5	<ul style="list-style-type: none"> ・食事形態の工夫② ・姿勢保持、認知する(見える事・見えない事)、飲む、食べる、等の基本 							
6	食事介助の基本について① ~演習を通して学びのまとめ~							
7	食事介助の基本について② ~演習を通して学びのまとめ~							
8	食事介助の基本について③ ~演習を通して学びのまとめ~							
9・10	口腔ケア基礎(義歯の手入れ、歯ブラシ、うがい等)教室演習							
11	事例に基づいた食事の介護(事例演習①) ロールプレイ演習事例の読み込み、準備							
12	事例に基づいた食事の介護(事例演習②) ロールプレイ演習事例の読み込み 準備							
13・14	事例に基づいた食事の介護(事例演習)							
15	科目認定試験							
評価方法	科目認定試験60%・授業内課題30%・出席率10%で評価。 総合し60点以上であること、レポートが全て提出されていること。							
自由記述 (メッセージ)	演習には必ず参加しましょう。実習着ルールに従い清潔感のある身だしなみを意識して下さい。また、全員がグループワークに参加できるよう心がけましょう(相手の話を聞く、自分の意見を伝える、等)。授業内容によっては、演習着ルール以外に持ち物があることがあります。教員のインフォメーションをよく聞き、忘れ物がないように注意してください。							

実務家教員

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	生活支援技術5 (自立に向けた身じたくの介護)		必修	1年後期	15コマ・30時間
担当教員	品川智則	背景	介護福祉士職歴5年		
授業形態	講義・演習	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール+実習者ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	最新介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ 中央法規				
授業概要 尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出すこと、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について学習する。介護において、身じたくにおける意義と目的を学び、その大切さについて理解すると同時に利用者の衣生活を支える介護方法や足浴・洗髪 of 具体的な介護方法について学びます。「こころとからだのしくみ」を中心とした他科目での学びも関連させ、講義・演習を通して学んでいく。また、演習では援助者役・利用者役を行い学習すると共に授業内容の振り返りを行う為にレポート課題を設ける。					
狙いと到達目標 ・生活習慣と装いの楽しみを支える介護の提供ができる。 ・整容行動、衣生活を調整する能力のアセスメントと介助の技法について理解できる。 ・爽快感・安楽を支え、安全な清潔保持のため介護の提供(足浴・洗髪)ができる。					
授業において実務経験をどのように生かすか 基本的な方法やその根拠を伝えていきたい。また、学生の学びの段階や状況に応じ、臨床経験での場面も伝え具体的な利用者や環境などをイメージできるような授業展開をしたい。各学生の実習などでの学びや経験も授業に反映できるよう努める。					
授業計画・内容			「関連科目」こころとからだのしくみⅡ		
1	着脱の介助 目的と意義		~「身じたく」に関連したこころとからだのしくみ~ ・身じたくのしくみ ・衣生活 ・心身機能の低下が身じたくに及ぼす影響 ・変化の気づきと対応		
2	足浴(デモ)				
3	足浴(演習)				
4	足浴(演習)				
5	洗髪(デモ)				
6	洗髪(演習)				
7	洗髪(演習)				
8	自立に向けた衣服の着脱の介助(演習) かぶり型パジャマから前開き着衣への着替え				
9	自立に向けた衣服の着脱の介助(演習) かぶり型パジャマから前開き着衣への着替え				
10	衣服の着脱の介助(演習) ベッド上での着替え				
11	衣服の着脱の介助(演習) ベッド上での着替え				
12	衣服の着脱の介助(演習) 事例に基づいた具体的な援助・準備				
13	衣服の着脱の介助(演習) 事例に基づいた具体的な援助				
14	衣服の着脱の介助(演習) 事例に基づいた具体的な援助				
15	科目認定試験				
評価方法	科目認定試験60%・授業内課題30%・出席率10%で評価。 総合し60点以上であること、レポートが全て提出されていること。				
自由記述 (メッセージ)	演習には必ず参加しましょう。実習着ルールに従い清潔感のある身だしなみを意識して下さい。また、積極的に参加し技術習得に向け繰り返し練習をしましょう。授業内容によっては、演習着ルール以外に持ち物があることがあります。教員のインフォメーションをよく聞き、忘れ物がないように注意してください。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	生活支援技術6 (自立に向けた排泄の介護)		必修	1年後期	15コマ・30時間
担当教員	品川智則	背景	介護福祉士職歴5年		
授業形態	講義・演習	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール+実習者ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	最新介護福祉士養成講座 生活支援技術 I・II 中央法規				
<p>授業概要</p> <p>尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出すこと、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について学習する。排泄に関する基本知識・技術を学習した上で、障害や生活の状況に応じた介護の方法や根拠について学びます。</p> <p>「こころとからだのしくみ」を中心とした他科目での学びも関連させ、講義・演習を通して学んでいく。また、演習では援助者役・利用者役を行い学習すると共に授業内容の振り返りを行う為にレポート課題を設ける。</p>					
<p>狙いと到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護を必要とする利用者の心身の状態・状況に応じた適切な排泄方法を理解する。 ・排泄の介護における根拠について、説明できる力を身につける。 ・人としての尊厳を保持し自立に向けた排泄介護を実践できる。 					
<p>授業において実務経験をどのように生かすか</p> <p>基本的な方法やその根拠を伝えていきたい。また、学生の学びの段階や状況に応じ、臨床経験での場面も伝え具体的な利用者や環境などをイメージできるような授業展開をしたい。各学生の実習などでの学びや経験も授業に反映できるよう努める。</p>					
授業計画・内容			「関連科目」こころとからだのしくみⅢ		
1・2	排泄の基礎知識と意義・目的 ～自立した排泄とは～		<p>～「排泄」に関連したこころとからだのしくみ～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄のしくみ(排便・排尿) ・排泄に関連したこころとからだの基礎知識 ・心身の機能低下が及ぼす排泄への影響 ・生活場面におけるこころとからだの変化の気づき 		
3・4	利用者の状況に合わせた排泄方法と福祉用具の活用方法 ①トイレ・ポータブルトイレ 演習				
5・6	利用者の状況に合わせた排泄方法と福祉用具の活用方法 ②便・尿器 演習				
7・8	利用者の状態に合わせた排泄方法				
9	事例から援助内容を組み立てる(事例検討) 準備				
10	事例から援助内容を組み立てる(事例検討) 準備				
11 12	利用者の状況に合わせた排泄方法③ オムツ 演習				
13・14	事例から援助内容を組み立てる(事例検討)				
15	科目認定試験				
評価方法	科目認定試験60%・授業内課題30%・出席率10%で評価。 総合し60点以上であること、レポートが全て提出されていること。				
自由記述 (メッセージ)	演習には必ず参加しましょう。実習着ルールに従い清潔感のある身だしなみを意識して下さい。また、積極的に参加し技術習得に向け繰り返し練習をしましょう。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	生活支援技術7 (自立に向けた入浴・清潔保持の介護)		必修	2年前期	15コマ・30時間
担当教員	主担当 倉持有希子	背景	看護師職歴10年		
授業形態	講義・演習	実務家教員 である			
受講ルール	(本冊子冒頭) 共通ルール+実習着ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	中央法規 介護福祉養成講座Ⅱ 生活支援技術Ⅱ				
授業概要 こころとからだで学んだ知識を活かし、生活文化を踏まえた、安全で快適な身体清潔を保持するための方法を学習する。					
狙いと到達目標 尊厳の保持の観点から、どのような状態にあっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な生活支援技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。達成目標は、自立に向けた清潔保持の方法と根拠を理解し実践である。					
授業において実務経験をどのように生かすか 基本的な清拭方法、入浴方法を学習する。また、入浴の利用者役体験では湯につかる快適性の他、プライバシーの露出、寒さ、浮力による不安定等、不快な体験をもとに快適な方法を考察する。また、日本人独自の入浴の価値を学習し、自立を目指した身体清潔の実践を通して、生活をよりよくするための生活支援について学習する。					
授業計画・内容					
1	講義 清潔保持の意義				
2	全身清拭演習① 演習 全身清拭演習前に、適切な物品の扱い方、拭き方の基本を習得する				
3	全身清拭演習② 演習 全身清拭演習前に、適切な物品の扱い方、拭き方の基本を習得する				
4	全身清拭デモンストレーション				
5	全身清拭演習③				
6	全身清拭演習④				
7	入浴介護① 入浴の意義(社会的・心理的意義)、演習の学習内容を理解する 家庭浴槽での介護				
8	入浴介護② 機械浴槽の入浴方法について				
9	入浴演習① 課題学習				
10	入浴演習② 課題学習				
11	入浴演習③ 課題学習				
12	入浴演習④ 課題学習				
13	入浴演習⑤ 課題学習				
14	入浴演習⑥ 課題学習				
15	科目認定試験				
評価方法	科目認定試験・レポートにおいて60点以上で合格。レポートは全て提出すること。				
自由記述 (メッセージ)	身体清潔の生活支援では、「湯につかる」という日本独自の文化を尊重し、高齢や障害があっても安全に快適に体験できる方法について学習します。ここでは、安全な清潔方法と、裸であることや寒さを伴う浴室環境であることを留意して行います。学ぶことが多いため、1回1回の授業を大切に取組んでください。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	生活支援技術8 (自立に向けた家事の介護)		必修	2年後期	15コマ・30時間
担当教員	佐藤海帆	背景	日本女子大学 家政学部 家政経済学科 助教		
授業形態	講義・演習	実務家教員 でない			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	最新介護福祉士養成講座 生活支援技術 I 中央法規				
授業概要					
家事の介助の技法を学び、自立に向けた家事の介助の技法を学ぶ					
狙いと到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重した、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた、適切な介護技術を用いて安全に援助できる技術や知識について、修得する学習とする。 ・衣食住・生活・生活管理について理解し、利用者の生活問題を解決するために必要な知識を身につける。 					
授業において実務経験をどのように生かすか					
生活感や合理性をとりいれた上で、心のこもった家事支援をする。					
授業計画・内容					
1	家庭生活にかかわる基本知識と家事の意義				
2	家事の介助の技法 掃除・ごみ捨て				
3	家事の介助の技法 掃除・ごみ捨て				実習
4	家事の介助の技法 衣類・寝具の衛生管理				
5	家事の介助の技法 衣類・寝具の衛生管理				実習
6	家事の介助の技法 洗濯				
7	家事の介助の技法 洗濯				実習
8	家事の介助の技法 裁縫				
9	家事の介助の技法 買い物				
10	家事の介助の技法 買い物				実習
11	家事の介助の技法 家庭経営				
12	家事の介助の技法 家庭経営				実習
13	家事の介助の技法 加工食品				
14	全体のまとめ				
15	科目認定試験				
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 出席 2. 5回の実習(グループワーク)と裁縫の提出 3. テスト 				
自由記述 (メッセージ)	時代や社会や家族の変化を理解し、それを基礎にして家事支援をすることが大切だと思います。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	生活支援技術9(休息・睡眠の介護) (レクリエーション活動援助法)	必修	2年前期	15コマ30時間	
担当教員	平山純子／吉田真衣	教員歴23年／介護福祉士職歴6年			
授業形態	講義・演習	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	最新介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ 中央法規				
授業概要	「休息・睡眠のこころとからだのしくみ」の授業の知識をいかして、休息・睡眠の介護を学ぶ。				
ねらいと到達目標	<p>ねらいと到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間の生活にとって休息・睡眠がどのような意味があるかについて理解する。 ・休息・睡眠の援助に不可欠なアセスメント項目、睡眠の援助は何を目標に行うかについて理解する。 ・休息・睡眠を促す介護方法、不眠の介護について理解する ・レクリエーション活動援助の技術と理論(根拠)について理解する。 				
授業において実務経験をどのように生かすか	<p>授業において実務経験をどのように生かすか</p> <p>「休息・睡眠のこころとからだのしくみ」の授業をいかして、睡眠の介護の理解につなげていきたい。</p>				
授業計画・内容	<p>1 休息・睡眠とは</p> <p>2 安眠を阻害する因子</p> <p>3 安眠をうながす介護</p> <p>4 休息・睡眠の介護</p> <p>5 睡眠障害とその支援 ①</p> <p>6 睡眠障害とその支援 ②</p> <p>7 睡眠障害とその支援 ③</p> <p>8 睡眠の介護 事例で見よう ①</p> <p>9 睡眠の介護 事例でみよう ②</p> <p>10 睡眠の介護 事例でみよう ③</p> <p>11 レクリエーション活動援助法①</p> <p>12 レクリエーション活動援助法②</p> <p>13 レクリエーション活動援助法③</p> <p>14 レクリエーション活動援助法④</p> <p>15 科目認定試験</p>				
評価方法	科目認定試験・レポートにおいて60点 以上で合格とする				
自由記述 (メッセージ)	人間にとっての休息・睡眠の大切さを理解してほしい。そして休息・睡眠が人間の生活に及ぼす影響について学び、介護に生かせるような学習にしてほしい。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	生活支援技術10(人生の最終段階における介護)(レクリエーション活動援助法)	必修	2年後期	15コマ30時間	
担当教員	平山純子／吉田真衣	教員歴23年／介護福祉士職歴6年			
授業形態	講義・演習	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	最新介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ 中央法規				
授業概要 人生の最終段階の理解とその介護を理解する。					
狙いと到達目標 人生の最終段階における介護とは何かを考え、理解し死を迎える人とその家族への介護を学ぶ。					
授業において実務経験をどのように生かすか 「人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ」を生かし、終末期の介護について考えることができる学習にしていきたい。					
授業計画・内容					
1	レクリエーション活動援助法⑤				
2	レクリエーション活動援助法⑥				
3	レクリエーション活動援助法⑦				
4	レクリエーション活動援助法⑧				
5	人生の最終段階の意義と介護の役割①				
6	人生の最終段階の意義と介護の役割②				
7	人生の最終段階の意義と介護の役割③				
8	人生の最終段階の意義と介護の役割④				
9	人生の最終段階における介護①				
10	人生の最終段階における介護②				
11	人生の最終段階における介護③				
12	人生の最終段階における介護④				
13	人生の最終段階における介護⑤				
14	人生の最終段階における多職種との連携				
15	科目認定試験				
評価方法	科目認定試験が60点以上で合格				
自由記述 (メッセージ)	人生の最終段階にいる人の心身の状態を学び、限りある生を、尊厳を尊重し、最期までその人らしく生きる支援につなげてほしい。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	介護過程 I		必修	1年前期	15コマ・30時間
担当教員	倉持有希子	背景	YMCA教員歴22年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	楽しく学ぶ介護過程 時潮社				
<p>授業概要</p> <p>他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。</p>					
<p>狙いと到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 介護過程の意義、目的が分かる ○ 必要な情報収集、その分析・解釈に基づいて介護内容の方法を計画し、実施・評価する一連の過程が理解できる。 					
<p>授業において実務経験をどのように生かすか</p> <p>実務経験を介護過程を展開する方法や根拠と結びつけ指導につなげている。</p>					
授業計画・内容					
1	介護過程とは				
2	生活って何だろう				
3	かかわりって何だろう				
4	課題解決思考について理解する①				
5	課題解決思考について理解する②				
6	介護過程を理解する				
7	情報収集とは①				
8	情報収集とは②				
9	介護過程とICF				
10	介護事例を展開する①				
11	介護事例を展開する②				
12	介護事例を展開する③				
13	介護事例を展開する④				
14	介護事例を展開する⑤				
15	科目認定試験				
評価方法	①出席点 10% ②小テスト×1回 10% ③レポート等課題4回 20% ④科目認定試験 60%				
自由記述 (メッセージ)	思考過程に沿った介護は専門職の行う介護です。多職種連携や家族への説明にも欠かせない資料になります。しっかりと学習しましょう。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	介護過程Ⅱ		必修	1年後期	15コマ・30時間
担当教員	品川智則	背景	介護福祉士職歴5年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	介護過程 建帛社				
授業概要 介護過程Ⅰで学んだ介護過程の基礎的知識を活用し、介護過程の思考過程、実践過程について理解をする。他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。					
狙いと到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護過程におけるアセスメントの思考の流れを理解する。 ・ 介護過程の全体像を理解する ・ 介護過程の各プロセスで求められる思考の方法を理解する。 ・ 介護過程の展開において諸科目の知識を統合する必要性を理解する。 					
授業において実務経験をどのように生かすか 私は、介護現場において、利用者の心身の状況に応じた介護を実践するために、利用者を多角的な視点で全体を把握し、その時々で必要なかわりには何か考え判断し実践してきた。多様な利用者との関わりから得られた経験を、介護過程における思考過程、実践過程等を教授する際にいかしていきたい。					
授業計画・内容					
1	科目オリエンテーション 介護過程の基礎知識				
2	介護過程とケアマネジメントの関係性				
3	ICFの視点をいかした介護過程の実践①				
4	ICFの視点をいかした介護過程の実践②				
5	ICFの視点をいかした介護過程の実践③				
6	事例演習① アセスメント(情報収集)				
7	事例演習② アセスメント(情報収集)				
8	事例演習③ アセスメント(情報の解釈・関連づけ・統合)				
9	事例演習④ アセスメント(情報の解釈・関連づけ・統合)				
10	事例演習⑤ アセスメント(課題の明確化)				
11	事例演習⑥ アセスメント(課題の明確化)				
12	事例演習⑦ 計画の立案(長期目標・短期目標)				
13	事例演習⑧ 計画の立案(具体的援助計画)				
14	まとめ				
15	科目認定試験				
評価方法	授業内の課題30%、平常点10%、科目認定試験結果60%として、60点以上で合格とする。				
自由記述 (メッセージ)	介護過程の科目はすべての科目を統合したものですので、様々なテキストを調べられるように普段から関連する資料なども含めて整理しておきましょう。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	介護過程Ⅲ		必修	1年後期	15コマ・30時間
担当教員	品川智則	背景	介護福祉士職歴5年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	介護過程 建帛社				
授業概要 介護過程Ⅰで学んだ介護過程の基礎的知識を活用し、介護過程の思考過程、実践過程について理解をする。他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。					
狙いと到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護過程におけるアセスメントの思考の流れを理解する。 ・ 介護過程の全体像を理解する ・ 介護過程の各プロセスで求められる思考の方法を理解する。 ・ 介護過程の展開において諸科目の知識を統合する必要性を理解する。 ・ 基礎的な知識を活用し、心身の状況に応じた介護過程の展開について理解する 					
授業において実務経験をどのように生かすか 私は、介護現場において、利用者の心身の状況に応じた介護を実践するために、利用者を多角的な視点で全体を把握し、その時々で必要なかわりには何か考え判断し実践してきた。多様な利用者との関わりから得られた経験を、介護過程における思考過程、実践過程等を教授する際にいかしていきたい。					
授業計画・内容					
1	事例演習① 事例の把握				
2	事例演習② 情報収集 情報収集シートへの記入				
3	事例演習③ 情報収集 情報収集シートへの記入に関するフィードバック				
4	事例演習④ 事前学習 事例の理解を深めるための基礎的知識について整理する				
5	事例演習⑤ 利用者の生活の全体像を理解する(ICFの視点で整理する)				
6	事例演習⑥ 利用者の生活の全体像を理解する				
7	事例演習⑦ 注目する情報について(注目する情報についてグループワークで考える)				
8	事例演習⑧ 注目する情報について(注目する情報についてグループワークで考える)				
9	事例演習⑨ 注目する情報について				
10	事例演習⑩ アセスメント(情報の解釈)				
11	事例演習⑪ アセスメント(情報の解釈)				
12	事例演習⑫ アセスメント(統合)				
13	事例演習⑬ アセスメント(統合)				
14	事例演習⑭ 計画の立案				
15	事例演習⑮ まとめ				
評価方法	授業内の課題60%、平常点40%、として、60点以上で合格とする。				
自由記述 (メッセージ)	介護過程の科目はすべての科目を統合したものですので、様々なテキストを調べられるように普段から関連する資料なども含めて整理しておきましょう。				

実務家教員

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	介護過程Ⅳ		必修	2年通年	30コマ・60時間
担当教員	主担当 品川智則	背景	YMCA教員歴10年以上		
授業形態	講義・演習	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	楽しく学ぶ介護過程 時潮社				
授業概要 他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。					
狙いと到達目標 様々な利用者の状態・状況に応じた介護過程の展開を理解し、適切にシートに記入することができる。 根拠に基づいた介護計画を作成することができる。 介護計画の実践内容の書き方、評価・考察について理解することができる。 (シートの記入については介護総合演習で学習する。)					
授業において実務経験をどのように生かすか 実務経験を介護過程を展開する方法や根拠と結びつけ指導につなげている。					
授業計画・内容					
1	教科書事例をもとに介護過程を展開する①	16	教科書事例をもとに介護過程を展開する⑯		
2	教科書事例をもとに介護過程を展開する②	17	教科書事例をもとに介護過程を展開する⑰		
3	教科書事例をもとに介護過程を展開する③	18	教科書事例をもとに介護過程を展開する⑱		
4	教科書事例をもとに介護過程を展開する④	19	教科書事例をもとに介護過程を展開する⑲		
5	教科書事例をもとに介護過程を展開する⑤	20	教科書事例をもとに介護過程を展開する⑳		
6	教科書事例をもとに介護過程を展開する⑥	21	教科書事例をもとに介護過程を展開する㉑		
7	教科書事例をもとに介護過程を展開する⑦	22	教科書事例をもとに介護過程を展開する㉒		
8	教科書事例をもとに介護過程を展開する⑧	23	教科書事例をもとに介護過程を展開する㉓		
9	教科書事例をもとに介護過程を展開する⑨	24	教科書事例をもとに介護過程を展開する㉔		
10	教科書事例をもとに介護過程を展開する⑩	25	介護過程の展開実習への準備①		
11	教科書事例をもとに介護過程を展開する⑪	26	介護過程の展開実習への準備②		
12	教科書事例をもとに介護過程を展開する⑫	27	介護過程の展開実習への準備③		
13	教科書事例をもとに介護過程を展開する⑬	28	ショート事例の展開①		
14	教科書事例をもとに介護過程を展開する⑭	29	ショート事例の展開②		
15	教科書事例をもとに介護過程を展開する⑮	30	ショート事例の展開③		
評価方法	①出席点 20% ②提出物10回 80%				
自由記述 (メッセージ)	筆記試験はありませんが、出席、提出物を重要視します。 事例の展開内容記入時は、複数の教員と一緒に指導します。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	介護総合演習 I	必修	1年通年	30コマ60時間	
担当教員	倉持有希子他	背景	YMCA専任教員		
授業形態	実習	実務家教員である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	配布プリント等				
授業概要 介護実習に向けて心構え、予備知識、動機づけ等の準備を行い、介護実習中には実践力を身につけることができるような学びとする。また、実習終了後には、体験した内容を知識と照らし合わせ、個人による振り返り、グループワーク、発表を通して互いに学びあう。					
狙いと到達目標 ○ 実習 I-1、I-2、I-3それぞれのねらいを説明できる。 ○ 達成可能な実習目標を立てることができる。 ○ 実習の心構えを説明できる。 ○ 実習記録の基本的な書き方が分かる。 ○ 実習の体験を知識と結び付けることができる。 ○ 他の学生の実習での学びを理解することができる。					
授業において実務経験をどのように生かすか 実務経験をもとに、学生の実習での体験と知識を結び付けるための授業を組み立てる。					
授業計画・内容					
1 介護実習の目的、実習 I-1とは	16 実習についての心構え・マナーについて				
2 実習先の概要について学ぶ①	17 実習 I-2の振り返りグループワーク①				
3 実習先の概要について学ぶ②	18 実習 I-2の振り返りグループワーク②				
4 実習記録の書き方、他実習準備	19 実習 I-2の振り返りグループワーク③				
5 実習についての心構え・マナーについて	21 実習 I-2の振り返り 発表				
6 実習での学びについてのまとめ	22 記録の書き方①				
7 実習での学びの共有(グループディスカッション)	23 記録の書き方②				
8 実習での学びの共有(全体発表)	24 実習についての心構え・マナーについて				
9 実習 I-2とは	25 実習 I-3を振り返る				
10 記録の書き方①	26 実習 IIに向けての準備をグループで考える①				
11 記録の書き方②	27 実習 IIに向けての準備をグループで考える②				
12 現場の指導者からの学び①	28 実習 IIに向けての準備をグループで考える③				
13 現場の指導者からの学び②	29 実習 IIに向けての準備をグループで考える④				
14 地域生活支援について学ぶ①	30 2年生を交えてのシンポジウム				
15 地域生活支援について学ぶ②					
評価方法	① 出席点 20% ② 授業内レポート及び課題の提出 80%				
自由記述 (メッセージ)	介護総合演習を通して、実習をどのように準備するか、また、実習で体験したことの意味をどう考えるかによっては、自分自身の成長に影響を及ぼします。前向きな参加を希望します。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	介護総合演習Ⅱ		必修	2年通年	30コマ60時間
担当教員	倉持有希子他	背景	YMCA専任教員		
授業形態	実習	実務家教員である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	介護総合演習Ⅰを履修し、実習の準備が整っている者				
教科書等	授業で使用している様々な教科書、配布プリント等				
授業概要					
<ul style="list-style-type: none"> ・実習Ⅱにおける介護過程展開の実践を効果的に進めるために実習に必要な知識技術、介護過程展開能力を身につける。 ・実習Ⅱ終了後、介護過程全体を振り返り卒業研究論文を作成・発表する。 ・実習Ⅰ、Ⅱを終了して、多様な生活の場での利用者の生活過程について、グループディスカッションから理解を深める。 					
狙いと到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・個々の利用者のニーズを把握した上で介護実践し評価することができる。 					
授業において実務経験をどのように生かすか					
実務経験をもとに、介護計画作成、実施、評価等の指導について、個々の学生に合わせた指導を実践する。					
授業計画・内容					
1. 2年生における介護総合演習の流れ			16. 受け持ち利用者に関するアセスメント		
2. 個人票の記入 実習先の理解			17. 受け持ち利用者に関するアセスメント		
3. 実習をイメージする 目標の下書き①			18. 受け持ち利用者に関するアセスメント		
4. 実習をイメージする 目標の下書き②			19. 受け持ち利用者に関するアセスメント		
5. 実習をイメージする 目標の下書き③			20. 受け持ち利用者に関するアセスメント		
6. 目標の完成			21. 卒業研究とは		
7. 記録の書き方①			22. 卒業研究論文の作成		
8. 記録の書き方②			23. 卒業研究論文の作成		
9. 記録の書き方③			24. 卒業研究論文の作成		
10. 記録の書き方④			25. 抄録の書き方		
11. 実習諸注意			26. 抄録作成①		
12. 受け持ち利用者に関するアセスメント			27. 抄録作成②		
13. 受け持ち利用者に関するアセスメント			28. 卒業研究発表会の運営について		
14. 受け持ち利用者に関するアセスメント			29. 卒業研究発表会		
15. 受け持ち利用者に関するアセスメント			30. 卒業研究発表会		
評価方法					
<ul style="list-style-type: none"> ① 出席点 20% ② レポート課題、演習内容の達成 ③ 卒業研究論文の提出 ④ 卒業研究発表 ②～④がすべて実施されている 					
自由記述 (メッセージ)					
実習Ⅱで介護過程の展開実習を実践しますが、アセスメントから介護計画の立案、実施、評価と、卒業研究発表までが介護総合演習の内容となります。学校での学びの全ての集大成がこの授業になります。最後までやり抜きましょう。					

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	実習 I	必修	1年通年	208時間	
担当教員	倉持有希子他	背景	YMCA専任教員		
授業形態	実習	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール(I-2 I-3は実技試験に合格していること) + 原則実習着着用				
受講条件	介護総合演習 I を履修し、実習の準備が整っている者				
教科書等	授業で使用している様々な教科書、配布プリント等				
授業概要	<p>個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする。</p>				
狙いと到達目標	<p>狙いと到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 実習施設・事業等の実際を体験し、施設等の機能を理解する。 ○ 他職種協働について見学、体験する。 ○ コミュニケーションを通し、利用者の理解を深めることができる。 ○ 生活支援技術について根拠に基づいた方法を実践できる。 ○ 利用者の様子が読み取れる記録を書くことができる。 ○ 利用者の1日の暮らしを理解し記録することができる。 ○ 地域における生活支援を実践的に学習することができる。 				
授業において実務経験をどのように生かすか	<p>実習指導における根拠に基づいた介護実践に生かす。</p>				
授業計画・内容	<p>実習 I - 1 コミュニケーションを中心とした5日間の実習</p>				
	<p>実習 I - 2 利用者理解、他職種協働、生活支援技術等の実践を含む10日間の実習</p>				
	<p>実習 I - 3 実習 I - 2の内容の他に、利用者の1日の過ごし方を観察し、実習 II の個別援助計画を立てる実習につながるものとする。</p>				
	<p>地域生活支援について理解する。 11日間</p>				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実習規定日数を終了していること ○ 期限内に記録が提出されている ○ 実習先の実習評価、記録をもとに評価する 				
自由記述 (メッセージ)	<p>実習は利用者の方々と触れ合うなかで、自分の可能性や課題に気づく場となります。また、様々な職種の方々との連携を直接体験し、施設・事業所の理解を深めます。自分の未来の働く姿を思い描きながら、有意義な実習になるようがんばっていきましょう。</p>				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	実習Ⅱ		必修	2年通年	248時間
担当教員	倉持有希子他	背景	YMCA専任教員		
授業形態	実習	実務家教員			
受講ルール	共通ルール(実技試験合格、事前オリエンテーション)+実習着着用				
受講条件	介護総合演習Ⅱを履修し、実習の準備が整っている者				
教科書等	授業で使用している様々な教科書、配布プリント等				
授業概要 個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程の展開を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する学習とする。					
狙いと到達目標 ○ 個々の利用者の生活背景や生活リズムを理解することができる。 ○ 利用者についてニーズに関連する情報を収集し、ニーズを明らかにすることができる。 ○ 上記のアセスメントをもとに、介護計画を実践、評価することができる。 ○ サービス担当者会議やケースカンファレンスを通して、多職種協働の中での介護福祉士の役割を理解する。					
授業において実務経験をどのように生かすか 様々な生活背景があり、老いやしょうがいと共に暮らす利用者への個別計画の立案、実践について、個々の学生に応じた指導を行う。					
授業計画・内容					
実習先決定後、事前に1日体験を実施し、実習施設の理念や沿革を理解し、配属フロアのオリエンテーションを受ける。					
実習Ⅱ-1 15日間 利用者を決め、介護計画を立案する。帰校日1日あり。					
実習Ⅱ-2 15日間 介護計画の実践、評価 帰校日1日、夜勤実習1日あり。					
介護過程展開のプロセスの中で、多職種協働について学習する。 ・ケアカンファレンスやサービス担当者会議に参加する。					
評価方法 ○ 受け持ち利用者への個別援助計画の立案、実施、評価ができる ○ 実習規定日数を終了している ○ 期限内に記録が提出されている ○ 実習先の実習評価、記録をもとに評価する					
自由記述(メッセージ) これまでの授業、実習の全ての集大成となります。最後までやり抜くことが、今後の仕事をする上での自信にもつながります。がんばっていきましょう。					